



第93期 中間報告書

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで

目 次

株主の皆様へ	1
「TRY1」3事業分野の取り組み	3
トピックス	6
財務ハイライト (連結)	7
連結財務諸表	9
各事業の概況 (連結)	10
豊田通商グループのCSR活動	13
会社情報	14

株主の皆様へ



拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。第93期上半期（平成25年4月1日から9月30日まで）の事業内容をご報告するにあたりまして、ご挨拶申しあげます。

当上半期の経済環境を概観しますと、先進国を中心に全体として持ち直し基調が続きました。米国経済は、個人消費や住宅投資が底堅く推移し、欧州経済にも底打ちの兆しが見え始めました。一方、新興国経済は、中国経済の減速や、米国の金融緩和縮小観測に伴う資金流出で、停滞感が強くなりました。

こうした中、わが国経済は、金融・財政政策の効果により輸出や個人消費の回復が続き、企業業績の改善により設備投資も徐々に回復するなど、全体として上向きつつあります。

このような環境のもと、豊田通商グループの当上半期の売上高は、前上半期を5,329億円（16.8%）上回る3兆7,133億円となりました。

当期の中間配当金につきましては、前期と比較して1株当たり1円増配の23円とし、支払開始日を11月26日とさせていただきます。

自動車分野では、生産拠点のグローバル化と自動車モデルの変化という大きな流れに対応するため、レアアースやリチウムの原材料供給などの新規取り組みとともに、金属加工や自動車ディーラーなどの既存ビジネスの横展開や幅だし、深掘りに注力しております。特に、アフリカにおいては、昨年資本参画したCFAO S.A.との協業により、そ

それぞれの強みを最大限に活かして事業を拡大してまいります。

また、自動車以外の分野では、再生可能エネルギーをはじめとする電力事業やエレクトロニクス事業など、過去に投資した案件が、着実に成長してきました。今後もアフリカなどの新興国を中心にインフラ事業や食料事業などへの積極的な投資により、「GLOBAL 2020 VISION」で掲げる、バランスの取れた強固な事業ポートフォリオの実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

平成25年11月

取締役社長 加留部 淳

GLOBAL 2020 VISION

2020年までに3つの事業分野で
事業ポートフォリオ「1：1：1」を実現

モビリティ

「モビリティ」分野では、車と「人・社会」の接点における自動車ビジネスの変化とそこから生まれるチャンスを先取りし、事業の成長と次代のモビリティへの貢献を目指す。

ライフ&コミュニティ

「ライフ&コミュニティ」分野では、豊かな社会づくりに貢献する価値創造企業として、「人・社会」により役に立つ多彩な価値を提供する事業の創造と拡大を目指す。

アース&リソース

「アース&リソース」分野では、食料・資源・自然環境などにかかわる「地球課題」と向き合い、豊田通商グループならではの取り組み方で新たな価値を創造し、事業の更なる成長・拡大を目指す。

ライフ&コミュニティ

「生活環境の向上」に
貢献する事業分野

アース&リソース

「地球課題の解決」に
貢献する事業分野



モビリティ

「次代の自動車の進化」に
貢献する事業分野

※「TRY1」の取り組みについてはP3～5をご覧ください。